

「子どもの哲学」授業 教案

茨城大学非常勤講師：土屋陽介

授業の概要

今回の「子どもの哲学」の授業では、子どもたちに身近な哲学的問題をいくつか取り上げ、それについて子どもたち同士で自由に話しあってもらうことを通して、子どもたち自身に話し合いによって物事を掘り下げて考える体験をしてもらいます。

各時間の学習内容

11月14日

時数	1時（11月14日） 話し合いのための「問い」を作る	
ねらい	授業の中で、自分たちで考えてみたい「問い」・話しあってみたい「問い」を、自分たち自身で話しあって決める。	
学習活動	0. 導入（自己紹介など） 1. 映画「ちいさな哲学者たち」のダイジェスト版を見る。 2. 話し合いのテーマの例を複数提示して、どのテーマについて話し合うかを決める。 3. テーマが決まったら、次回以降話し合う「問い」を作る。 4. ワークシートを配付し、クラスごとに決まった「問い」について自分の意見を書いてくるように指示する。	5分 10分 10分 15分 5分
指導上の留意点およびポイント	<p>○ふだんの話し合いと哲学対話の違いを、児童にもわかりやすく理解させるために、以下の三点を特に強調する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問をし合いながら話を進めていくこと。 ・思ったことは何でも自由に発言できるが、必ず理由を述べること。 ・結論は出なくてもいいこと。 <p>○話し合いのテーマは、児童から新しいテーマの提案があったら、それも候補に加える。</p> <p>○テーマから「問い」を作る作業は、児童にとって初めての体験となるため、「問い」の例をあらかじめ考えておいて、必要に応じて児童に示していく。</p> <p>【問いの例】</p> <p>「友達」→「一人でのいるのと友達といるの、どっちがいい？」 「親友とただの友達はどう違う？」「先生は友達？」 「友達だって感じるのはどんなとき？」</p> <p>「幸せ」→「何をしているときに幸せ？そしてそれはなぜ？」 「寝ているときって幸せ？」 「いまと昔（将来）はどっちの方が幸せ？」</p> <p>「貧乏」→「金持ちならばいつも幸せ、貧乏ならばいつも不幸せ”これって本当？」「貧乏って嫌？（貧乏になりたい？）」「貧乏な人にはお金をあげた方がいい？」</p> <p>「大人」→「大人になったら何になりたい？」「早く大人になりたい？」「いくつになったら大人？（4年生って大人？）」「大人がみんないなくなったら大変？」</p>	

11月21日

<p>時数</p>	<p>2時 (11月21日) グループごとに話しあって考える</p>	
<p>ねらい</p>	<p>クラスで決めた「話し合いのための問い」について、5人1組のミニグループを作って、自分たち同士で自由に話し合う。</p>	
<p>学習活動</p>	<p>0. 導入 1. 話し合いのルールと進め方を理解する。 2. 5人1組のミニグループを6個作り、グループごとに話し合いを行う。 3. 話し合いを踏まえた上で、「問い」について改めて考えたことを翌日までにワークシートに書いてくるように指示する。</p>	<p>10分 30分 5分</p>
<p>指導上の留意点 および ポイント</p>	<p>○話し合いのルールと進め方については、あらかじめポイントを模造紙に書いたものを準備しておき、それを児童に示しながら簡潔に説明する。</p> <p>○ミニグループでの話し合いは、1人6分の時間配分で、以下の手順に沿って話し合いを進める。6分ごとにベルを鳴らしてタイムキープを行い、5人全員が話をする順番が回ってくるようにする。(自分の考えを発表する順番は出席番号順にする。)</p> <p><u>(1) 発表</u> 自分の意見を書いたワークシートを見ながら、「問い」についての自分の意見を発表する。 ↓</p> <p><u>(2) 質問</u> 発表が終わったら、聞いていた残りの4人は、いまの発表の中でよくわからないところがあるかどうかを確認し、わからないところがあったら質問する。 質問されたら、発表者はそれに答える。 ↓</p> <p><u>(3) 議論</u> 質問が終わったら、聞いていた残りの4人は、いまの意見に賛成か反対かを述べる。 なぜ賛成か・なぜ反対かの「理由」も述べて、全員で自由に話し合う。 ↓</p> <p><u>(4) 交代</u> 6分間議論したら、次の人と交代する。</p> <p>○授業者と授業補助者は、6個のミニグループを順番に巡視し、適宜子どもたちの輪の中に入って話し合いに加わっていく。その際には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○ってどういうこと？ (意味をはっきりさせる) ・なんで？ (理由をはっきりさせる) ・たとえば？ (具体例や反例を考えさせる) <p>の三つの質問を率先して行って、子どもたちに示していく。</p>	

11月28日

時数	3時（11月28日） クラスみんなで話しあって考える	
ねらい	前時の話し合いを踏まえた上で、同じ問いについてクラス全体でもう一度話し合い、話し合いを通して生徒自身に考えをより深めさせる。	
学習活動	0. 導入（ワークシートの返却など）	5分
	1. ワークシートから児童の意見をいくつかピックアップしたプリントを配付する。	10分
	2. 前時と同じ5人1組のミニグループを合体させて、10人1組の中グループを3個作り、授業者・授業補助者の進行のもとで、中グループごとに話し合いを行う。	25分
	3. 3個の中グループを合体させてクラス全体で大きなサークルを作り、授業者の進行のもとで、クラス全体での話し合いを行う。	5分
4. 授業全体を振り返ってまとめの話をし、授業の感想を翌日までに書いてくるように指示する。		
指導上の留意点およびポイント	<p>○中グループでの話し合いに入る前に、プリントを簡単に解説する。</p> <p>○中グループでの話し合いの進め方は、各授業者・授業補助者の進行に基本的には委ねる。ただし、話し合いの最初だけは、全グループが「同じ問いかけ」からスタートするようにする。</p> <p>○挙手をして発言するように指示する。</p> <p>○結論は出なくて構わない。話し合いを通して、子どもたち一人一人が自分の考えをより深められるようにすることを目的とする。</p> <p>○授業の最後に、ここまでの3回の授業を振り返って、まとめの話をする。まとめの話では、「この授業はなんのために行ったのか（授業の目的）」に触れ、今回の哲学対話の授業の意味を子ども自身に理解できるようにする。</p>	

事前に準備が必要なもの

- 名札：文字が大きめのもの。
- ワークシート：「話し合いのメモ」と「授業の感想」の2種類を使用。
- 模造紙：「話し合いのルール」と「話し合いの進め方」をまとめたもの。
- ベル：2時目の話し合いで使用。タイムキープ用。
- 第3回目の授業で配付するプリント：ワークシートから児童の意見をピックアップする。